

令和元年度 開新高等学校学校評価

努力目標と反省点・改善点

大項目	小項目	重点目標	反省点	改善点
学校経営	工業科、普通科、総合学科の特色を生かした魅力ある教育活動の実践	・ものづくりの楽しさや社会的重要性を理解し、将来の工業技術者としての夢や目標を涵養する ・生徒が、様々な学習機会を通じて自己の興味・関心・目標を探求・設定し、それに沿った上級学校への進学実現 ・総合学科の特色である「生徒が主体的に学ぶ」姿勢を涵養するとともに、福祉、情報ビジネス、国際の3系列の特色を生かした教育の実践に努める ・基礎学力の定着と生徒が希望する進路を実現できるような教育活動の実践	・震災による実習施設が一部の学科で使用できなかった事により、実習の内容などに制約が多かった ・一部の教員に授業における創意工夫の不足、新しい技術の習得への熱意不足、教科教育方法のマンネリ化が見られた ・総合学科においては、担当教員不足、実習設備の不足によって思ったような教育活動ができなかった ・朝の自主学習の時間への取組が、クラス担任によって温度差が見られた ・様々な特性を有する生徒への柔軟な対応ができなかった面があった	・実習棟の完成と新しい実習設備の導入を行う事ができた ・新しい施設・設備を生かして、子どもたちに“ものづくり”の楽しさを実感させ、確かな技術・知識をもった工業技術者の育成に努める ・生徒が興味・関心を持って学習に取組む事ができるように、教員が自らの研鑽に努める ・教員が、1時間、1時間の授業を大切にする意識を大切にする ・限りある人的資源、実習設備を効率的に利用しながら、創意工夫に努め、子ども達の興味・関心を刺激し、自ら進んで学習する姿勢を涵養することに努める ・子どもの人生を長いスパンで俯瞰し、社会人になっても困らない、また自ら学習する際に必要な基礎学力を見極め、それをどのように定着させていくか、という事を研究・実践していく ・スクールカウンセラーや養護教諭、特別支援教育担当教員と、教員が情報共有を密に行う事により、様々な特性を有する生徒への合理的配慮等について共通認識を図る
	新学習指導要領移行に向けての研究・周知徹底と、大学入試センター試験の改定に向けての受験対策の見直し	・新学習指導要領への移行に向けてその趣旨の周知徹底を図り、その狙いを生かした教育課程の研究に努める ・新しい大学入試制度の研究と、それに対応出来る進学指導体制、並びに受験対策を研究・実施する	・新学習指導要領についての校内職員研修会が不十分であった ・新しい大学入試制度の基本方針が二転三転した事によって、その対応が出来ない状態が続いている	・校内研修などを通じて、引き続き、新学習指導要領について職員の理解の徹底、教科教育方法、授業内容の再検証に努める ・新しい大学入試制度について、情報収集に努めるとともに、生徒に不利になる事がないように柔軟に対応していく
	ICTの活用による分かりやすく楽しい授業と、校務の効率化、学校からの情報発信の研究	・ICTを生かした分かりやすく楽しい授業の研究 ・ICT導入による校務の効率化と、“働き方改革”への対応を図る ・学校から保護者や地域社会に向けての積極的な情報発信を行う事により、家庭や地域社会との連携を強化する	・ICTに対して教職員の取組みに差が見られた ・高額な既存の教育システムや必要な機器、設備の導入はかなり厳しいものがあった ・学校からの情報発信についての組織的な不備から学校行事の家庭への連絡が不十分であったことが見られた	・ICTについて、教職員に対して研修の機会を設けるなど、ICT教育への理解を促す ・IT機器やソフトウェアについて、教職員のスキルアップを図る ・学校からの情報発信について、校内で体系的組織の構築に努める
学力向上	指導力の向上	・教員が自らの資質向上を図り、わかりやすい授業づくりを行うための教材研究や自己研鑽に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導を心掛ける。	・ICEを活用した授業が効果的にできたが他の先生との共有はまだできていなかった。 ・生徒の実情に合わせた教材の作成はできたが評価等はまだできていない。 ・できる限り一人一人に声をかけをするよう心掛けた。 ・図や写真を使った説明で教科書や板書だけでは生徒の興味関心も少ないように感じた。	・写真や図を私用し理解しやすく興味を引くよう、ICEの活用を増やす。 ・教材研究の時間を増やす。 ・小テスト等の導入を考える。 ・教師間の相互の研鑽が必要。 ・教科の枠を超えた「公開授業」の実施や指導案の共有 ・研修の場の企画・立案。 ・授業で使うアプリをダウンロードしやすい環境にせいて欲しい。 ・可視化できるようプロジェクターの増やして欲しい。
	基礎学力の定着	・宿題などを活用し、基礎学力の定着を図るように日々指導する。 ・家庭学習の習慣を身につけるように促す。 ・必要に応じて個別の学習指導や添削を行う。	・朝学習の取組みにクラスの温度差がある。 ・時折、慶成の評価のための課題を出したり、小テストの実施を試みたが家庭学習を身に付けさせるまでには至らなかった。 ・朝学習の確認はできたが、毎日の学習の定着まではできなかった。 ・基礎的な内容ができていないため、授業の中で何度も同じ内容を説明することになった。 ・朝学習の徹底ができた。	・家庭学習を身に付けさせるにはどうすれば良いか。 ・授業中の小テストの回数を増やし、間違いをやり直すことで基礎学力を身に付けさせる。 ・毎日の指導を根気強く続ける。 ・個別指導の時間を増やす。 ・各種課外の実施も含め、放課後の学習会など学校全体で組織的に取り組まなければ低学力生徒への指導は難しい。と感じる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・心を込めて挨拶のできる生徒を育成する。教師から先ず挨拶を行う ・校内外のルールを守り、服装・頭髪に気を配り、自分らしさを表現できる生徒の育成	挨拶におきましては職員、生徒におきましても率先して行うことができた。頭髪・服装に関しましては、男女別に検査をすることによってスムーズに集中しておこない円滑に実施できた。	クラブ生はしっかり挨拶ができますが、全校生徒で取り組めるように呼びかけていきたいと思います。
	命を尊び、心身共に健康な人材の育成	・交通ルールの遵守、交通モラルの確立を図る。 ・他者を理解し思いやるとともに、自分を高め充実した校内生活を送らせる ・生徒指導について、生徒の人権に配慮し、生徒の内面と向かい合いながら自分を見つめなおす機会を持たせる ・自己管理能力の育成(情報モラルの高揚、貴重品等の管理)	交通ルール・モラルにおきましては、年々良くなる傾向にあると思いますが浸透できていない部分もあります。盗難等も数件あっています。自己管理の徹底が必要かと思っています。	交通教室・集会等で全体に話をしていきたいと思っています。
	自主的に行動できる意欲ある生徒の育成	・朝の清掃活動及び校内の美化に積極的に取り組み、施設・設備を大切に扱う心を育てる ・地域の清掃活動等を通して奉仕の心を育てる	朝、クラブ生におきまして清掃活動をおこなっていただき、地域の方からお褒めのお言葉をいただいています。	全クラブで取り組めるようになると、まだ学校全体が良くなるのかなと思いますすが中々難しいのかなと感じます。
進路指導	進路に関する意識の向上	LHRや総合的な学習の時間の活用だけでなく日々の授業においても進路意識を高める	学年団と連携した取り組みが、さらに必要であると思う	クラス単位での統一した指導も充実していく
	進路情報の提供	学年団と進路指導部の連携により生徒情報を共有し、就職・進学委員の活用により進路に関する情報をクラスに伝達する	生徒にはできたと思うが保護者に伝わっていない部分があったようである	保護者に向けた情報提供をより強化する
	進路相談の充実と環境整備	進路指導室の機能と指導環境の整備を図り、生徒・保護者・教職員の相談に対応できる態勢を整える	相談に来た生徒・保護者への対応はできていたと思う	保護者も含め、対応力をさらに強化する
特別活動	学校行事の充実	・内容を工夫し、生徒の良き思い出となるような行事を1つでも多く行う	開新祭を実施したが、生徒一人ひとりが思考を凝らし、クラス一丸となって素晴らしい展示物を作り上げた。食品バザーも大盛況で、来校した育友会保護者の反応も良かった。	開新祭と開新競技大会の毎年開催及び一般公開の要望があったので、協議する必要があると思う。
	クラブ活動の充実	・クラブ活動の推進と活性化を図る ・クラブ活動と学業の両立を図る	どのクラブも活発に活動することができた。特に男子駅伝部の50年ぶりの全国大会出場は、学校活性化の一助となった。学業との両立についても、ほとんどの生徒が自覚を持って学校生活を送ることができた。	来年度は施設が全面復旧するので、精一杯努力を重ね、今年度以上の結果を残してもらいたい。
	生徒会活動の充実	・委員会活動を充実させる ・ボランティア活動を充実させる	委員会活動については、各委員会で若干の温度差が感じられた。校内外のボランティア活動は、生徒会役員を中心に積極的に参加することができた。	できれば各委員会に顧問教師を置いて、委員を集めて年間計画を立て、それに沿って活動してもらいたい。また、以前実施していた美化デーのような、全校生徒でできるボランティア活動で愛校心を育みたい。
健康安全管理	健康教育の推進	・心身のバランスをとり、健康で衛生的な生活習慣の推進を図る	心身の健康のバランスや生活習慣の改善についての啓蒙が必要だと感じている	生徒とのコミュニケーションを通して、実態把握に努め、心身の健康への関心を高めるよう掲示等を利用して工夫する
	教育環境の整備	・学校内外の環境美化の推進と安全な教育環境整備に努め、事故・けがを防止する	校舎新築で教育環境は不十分な面があったと感じている	整った環境でさらに安全・美化推進に努める
	教育相談	・面談等を痛して生徒の実態把握に取り組み、担任や養護教諭と連携を図る ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応する	生徒についての実態把握・共通理解に関しては、担任や保護者、その他と連携を図り、適切な対応ができた	カウンセリング利用に関して、さらに保護者への周知を図り、必要とする生徒が受けやすい体制をつくるよう努める